

横浜市敬老特別乗車証のＩＣ化について

1 趣旨

横浜市敬老特別乗車証（敬老パス）制度は、高齢者の社会参加を支援し、もって高齢者の福祉の増進を図ることを目的とした制度です。

高齢化の進展に伴い、事業費が増加し、交通事業者・本市ともに負担が増えるなどの課題があるため、令和元年度に「横浜市敬老特別乗車証制度のあり方に関する検討専門分科会」を設置しました。

その結果、持続可能な制度設計の詳細検討のためには、より正確に利用実績を把握する必要があり、そのためには敬老パスのＩＣ化が有効との答申が示されました。

これを踏まえ、令和2年度にＩＣ化に向けた検討を行い、令和3年度予算にシステム構築費用を計上して、準備を進めてきました。

このたび、ＩＣ化のための利用管理システム構築等業務委託について、契約を締結しましたので御報告します。

2 ＩＣ化に向けた検討経過

(1) 技術検討連絡会

令和2年度から、交通事業者も加わった「横浜市敬老特別乗車証ＩＣ化等技術検討連絡会」を開催し（計5回）、技術的な課題に関する検討を行いました。

(2) プレテスト

非交通系ＩＣカードやＱＲコードなど各種媒体のプレテストを行い、実現可能性を確認しました。

(3) 学識経験者からの意見聴取

業者選定のプロセスにおいて、公平性・透明性を高めるため、提案募集時の業務説明資料及び評価基準等について、また、委託事業者決定後には、契約する際の注意事項等について、高齢者福祉や情報システム構成等の専門的知見を有する学識経験者3名からの意見聴取を行いました。

3 利用管理システムの基本的な考え方

- ・ 利用実績（※）を把握すること。
（※）利用者別の利用情報（利用交通機関・利用日時・利用場所）及び交通機関別の利用回数
- ・ 敬老パスの利用時に有効・無効の判定をすること。
- ・ 将来的な制度改正に対応できること。
- ・ 令和4年10月から運用を開始できること。

4 委託契約について

(1) 事業者の選定経過

新たに敬老パスの利用管理システムを構築するにあたり、公募型プロポーザル方式により広く事業者から提案を募りました。

令和3年6月に事業者の公募を開始し、提案があった2者について評価を行った結果、受託候補者を特定しました。

(2) 委託件名及び受託者

委託件名	横浜市敬老特別乗車証利用管理システム構築等業務委託
受託者 (企業体構成)	FPM・MC共同企業体 〔 構成員：フェリカポケットマーケティング株式会社 モバイルクリエイイト株式会社 〕

(3) 契約期間

令和3年9月17日から令和5年3月31日まで

※令和4年度予算については、令和3年第1回市会定例会にて債務負担行為議決済

(4) 契約金額

1,996,578,100円

(5) 委託業務の概要

敬老パスの利用管理システムの開発、バス車内及び鉄道有人改札窓口に設置する読取機等の機器類の開発及び設置、カード等の作成など、IC化等に必要となる一連の業務について委託します。

(6) 導入する媒体

非接触ICカード（フェリカ）を使用します。

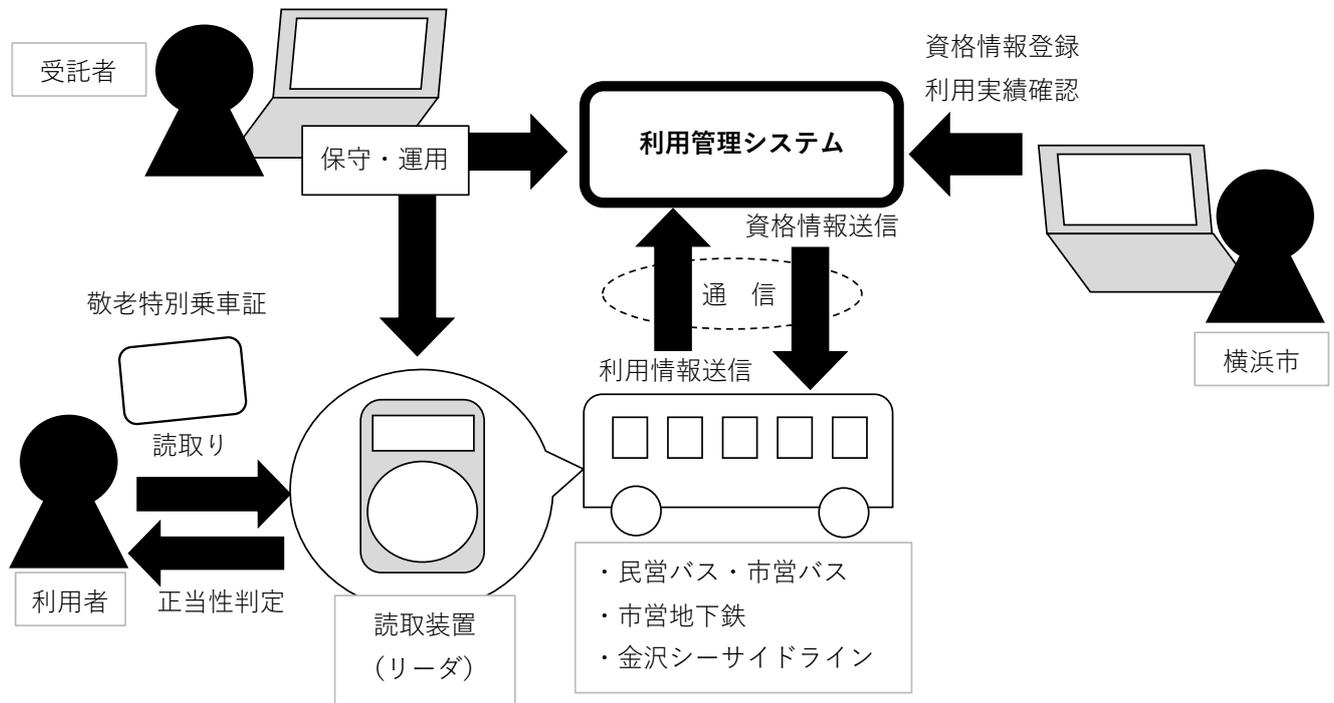
なお、読取に必要となるリーダー等の車載用機器類を、バス車内及び鉄道有人改札窓口に新たに設置します。

5 今後のスケジュール（予定）

令和3年10月～ システム・車載用機器類の開発開始

令和4年10月 運用開始

<参考1：利用管理システムのイメージ>



<参考2：車載機器のイメージ>

